

# 坂出人工土地の新陳代謝

学籍番号：1200133 氏名：藤田 彩  
 指導教員：重山 陽一郎 吉田 晋  
 システム工学群 建築・都市デザイン専攻

## 1-はじめに

### 1-1 坂出人工土地について

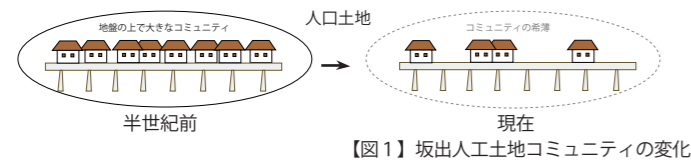
坂出市宮京町団地（通称：坂出人工土地）は建築家の大高正人氏が設計し、1966年~86年に4期に分け建設された。対象敷地は、香川県坂出市京町2丁目1に位置する。1階は商店街、市民ホール、駐車場として利用されている。【図5】2階、3階は集合住宅、広場などが設けられており、複合施設の機能を備えた建物である。【図4】

### 1-2 メタボリズム建築とは

坂出人工土地は1960年代、人口増加による土地不足問題、密集不良住宅の解決、新しい生活環境を創造するために設計された。このように社会の変化や人口の成長に合わせて有機的に成長する建築をメタボリズム建築と呼ばれている。

### 1-3 問題点

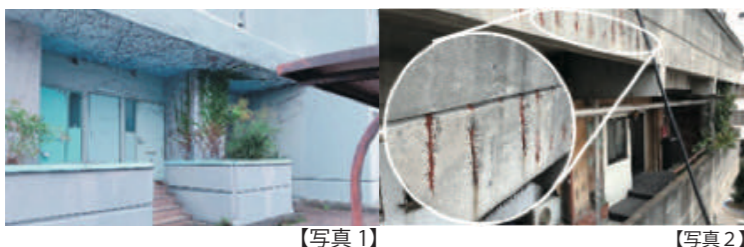
坂出人工土地が建設されてから半世紀以上が経ち、建設当時と現在とで社会は大きく変化した。この数十年の人口減少によって全国の都市や市街地の空洞化が目立つと同時に、人と人との繋がりが希薄になっているように感じる。



坂出人工土地でも広場で遊ぶ子供たちや集會場で話す人々の姿が日常風景であり、人口土地上で大きなコミュニティが形成されていたが現在は空き家、空き店舗が目立ち人の賑わいがなくなることによってコミュニティが薄れてきているように感じる。【図1】

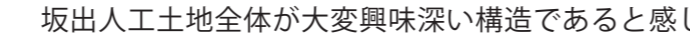
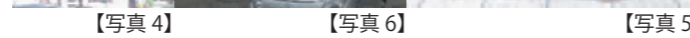
他にも以下のような問題が浮き彫りになっていることから今後坂出人工土地が取り壊される可能性がないと言い切れない。

- i) 人口減少によって空き家、空き店舗が増えることによる景観の悪化【写真1】
- ii) 建物の老朽化、時代変化に応じた機能の未整備【写真2】



## 1-4 魅力

- 一方で、以下の魅力を発見することができた。
- i) 時代の変化によって作り出された独特な雰囲気【写真3】
- ii) 強烈にインパクトのある柱と梁【写真4】
- iii) 人口土地の上へと続く特徴的な階段【写真5】
- iv) 市民ホール上の傾斜屋根に建つ住宅【写真6】



坂出人工土地全体が大変興味深い構造であると感じた。また、坂出人工土地が建設された目的は住宅改良のためだったが、建築が好きな人の中では、有名な建物として認識され始めていたり、観光目的で訪れる人も見受けられたりしている。私は坂出人工土地が「文化財」としての価値を評価され今後も使用されながら後世に語り継がられてほしいと考える。

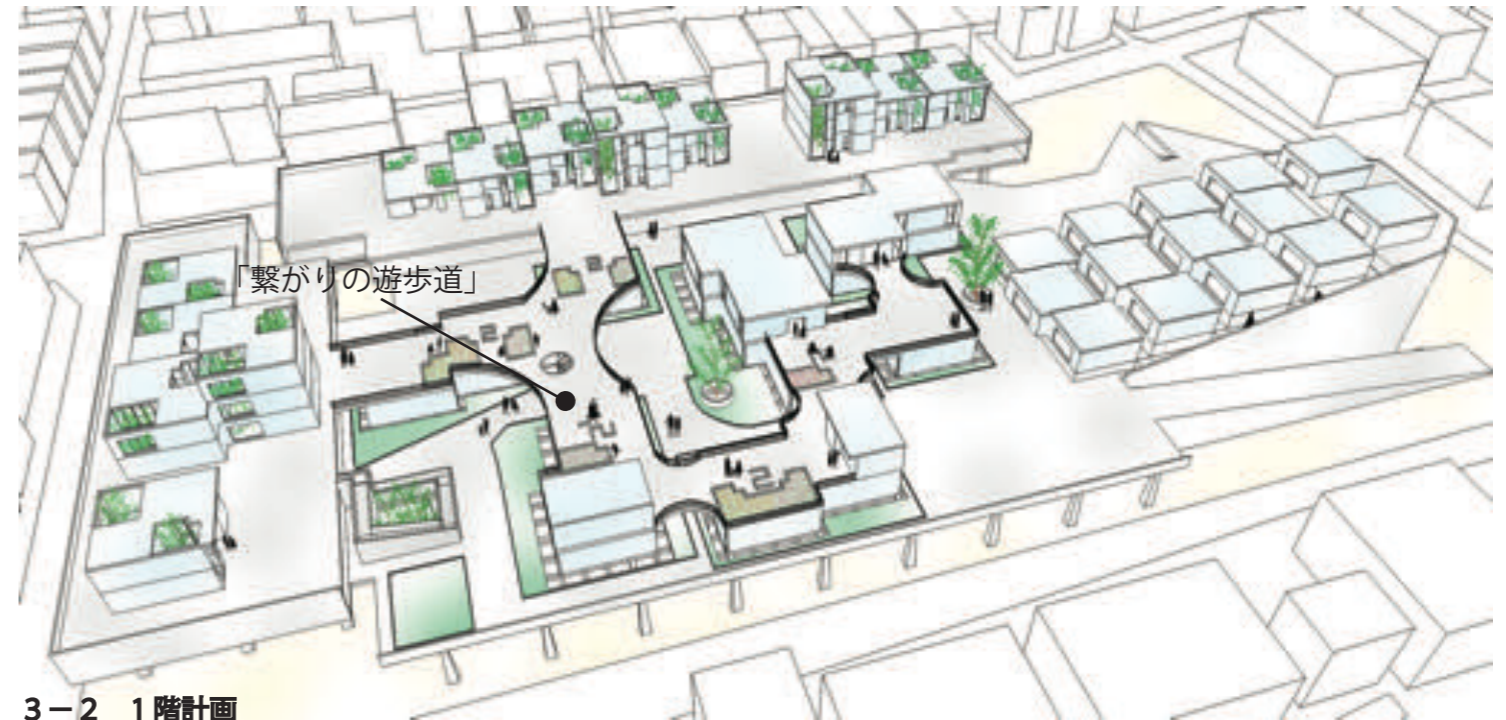
## 2-目的

人口減少やコミュニティが変化する中で人と人との繋がりが多様な価値観、文化を知ることが重要だと考える。そこで、坂出人工土地の魅力や面影を残しながら、「繋がり」や「多様性」を主張する建築へと新陳代謝させ、人が集まる空間へと蘇らせることを目的とする。

## 3-提案

### 3-1 用途

近年、香川県では瀬戸内国際芸術祭への注目が高まっている。それと直接の連動はないが坂出人工土地では小さなアートプロジェクトを発表していたり、坂出人工土地そのものをアートな作品としてとらえる人も増えていたりする。また、多様性の観点からもアートは目的と関連するためアートと融合した建物を提案する。



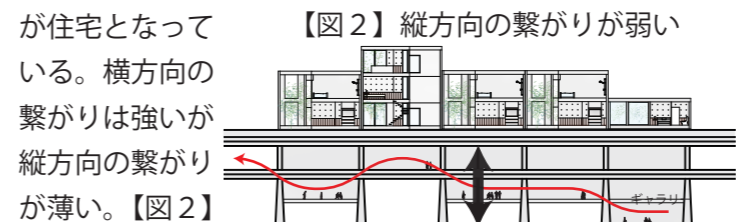
### 3-2 1階計画

1階は瀬戸内国際芸術祭で飾られたオブジェやアーティストの作品観賞するためのギャラリーを設ける。ギャラリーは外部に発信するため、道路に面する外側に設ける。

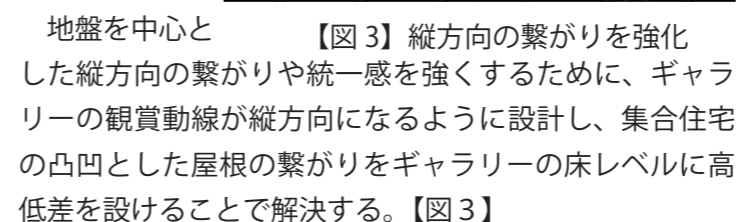
オブジェは一様に並ぶ柱の空間にランダムに配置させることで、柱がオブジェを引き立たせる作品の一部となり、互いを引き立たせ合うと考える。【パース2】【裏面：図8】

### ○ギャラリー

現在は地盤の下が商店街、上が住宅となっている。



横方向の繋がりは強いが縦方向の繋がりが薄い。【図2】

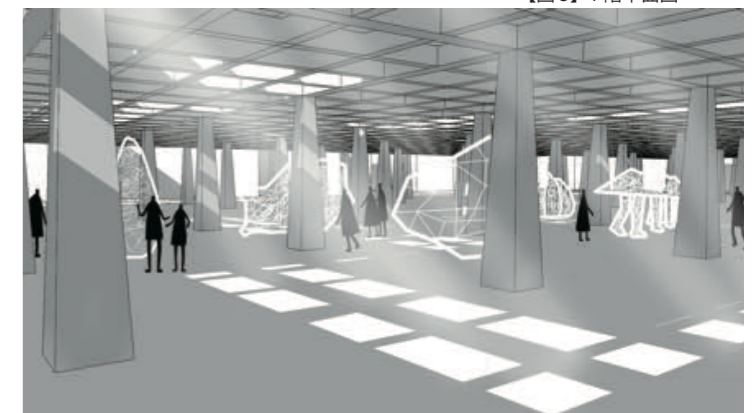
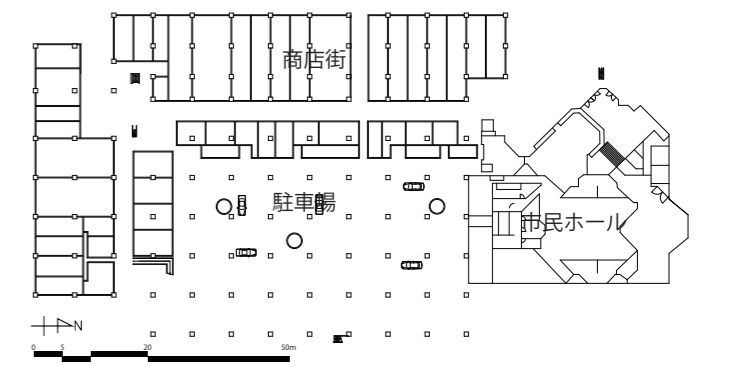
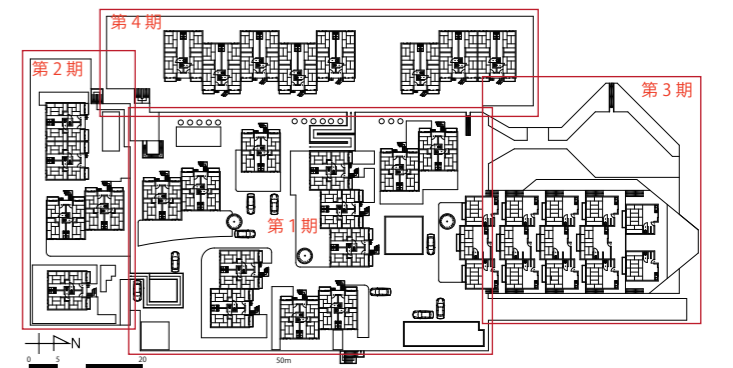


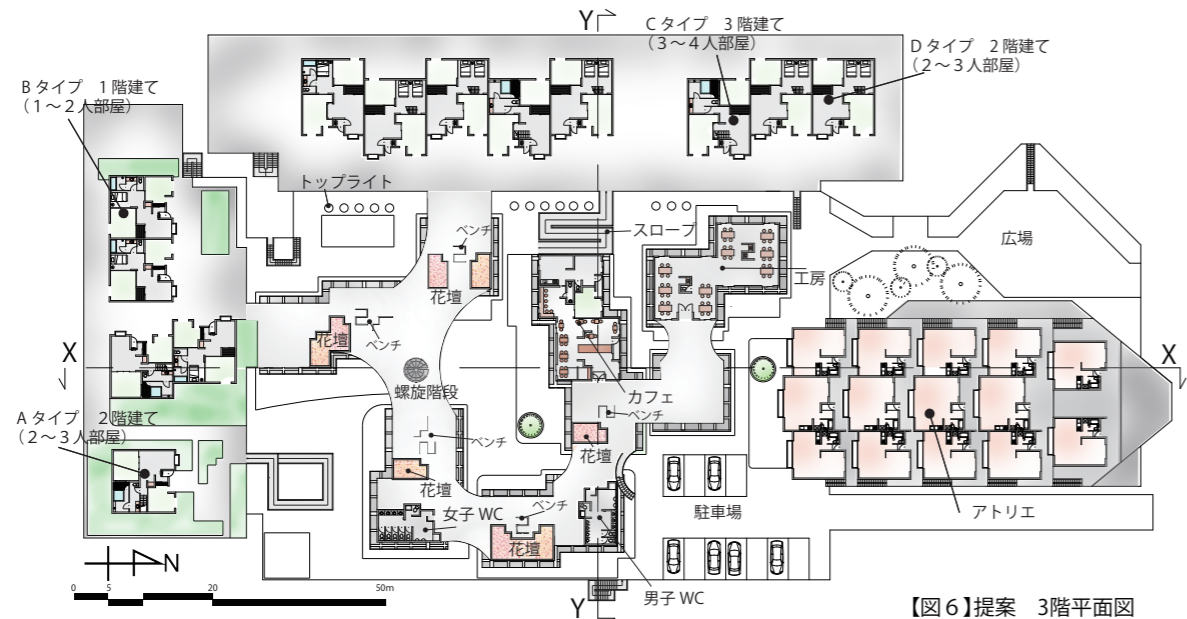
### 3-3 2階計画

2階は1階と繋がるギャラリー、作品を保存するための倉庫、緑化スペース等を設ける。

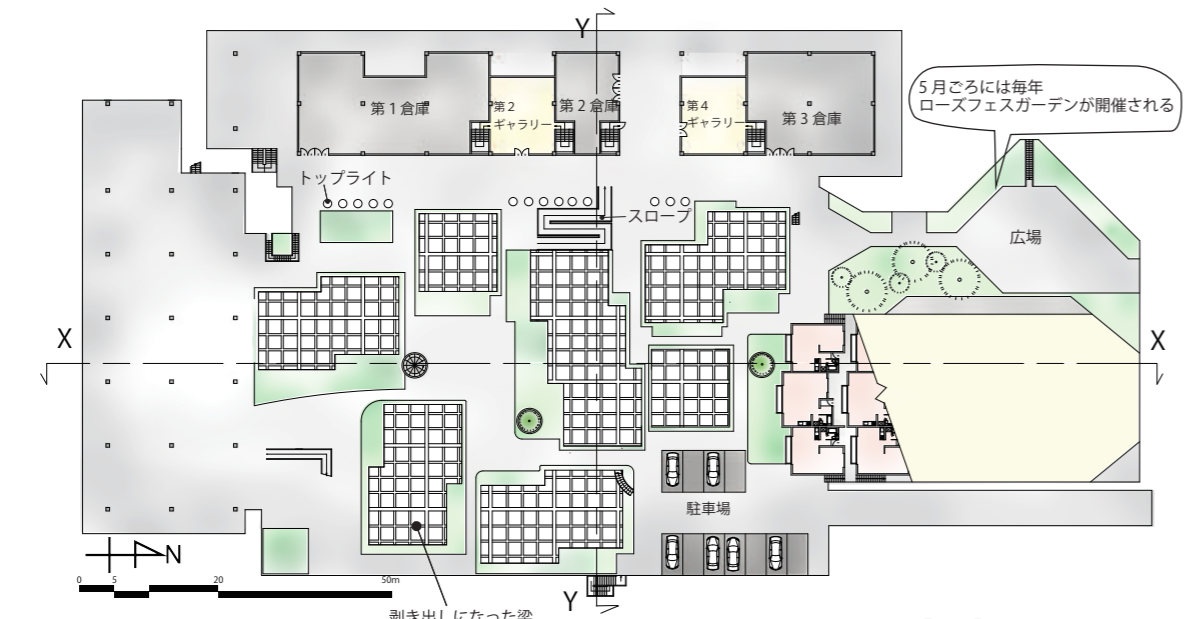
第1期に建つ集合住宅【図4】から四方外側に1m広い穴を開ける。地盤の下を明るくすると共に剥き出しになった梁が地盤の下に光のラインアートを作り出す。【パース2】【裏面：図7】

【パース1】坂出人工土地の新陳代謝

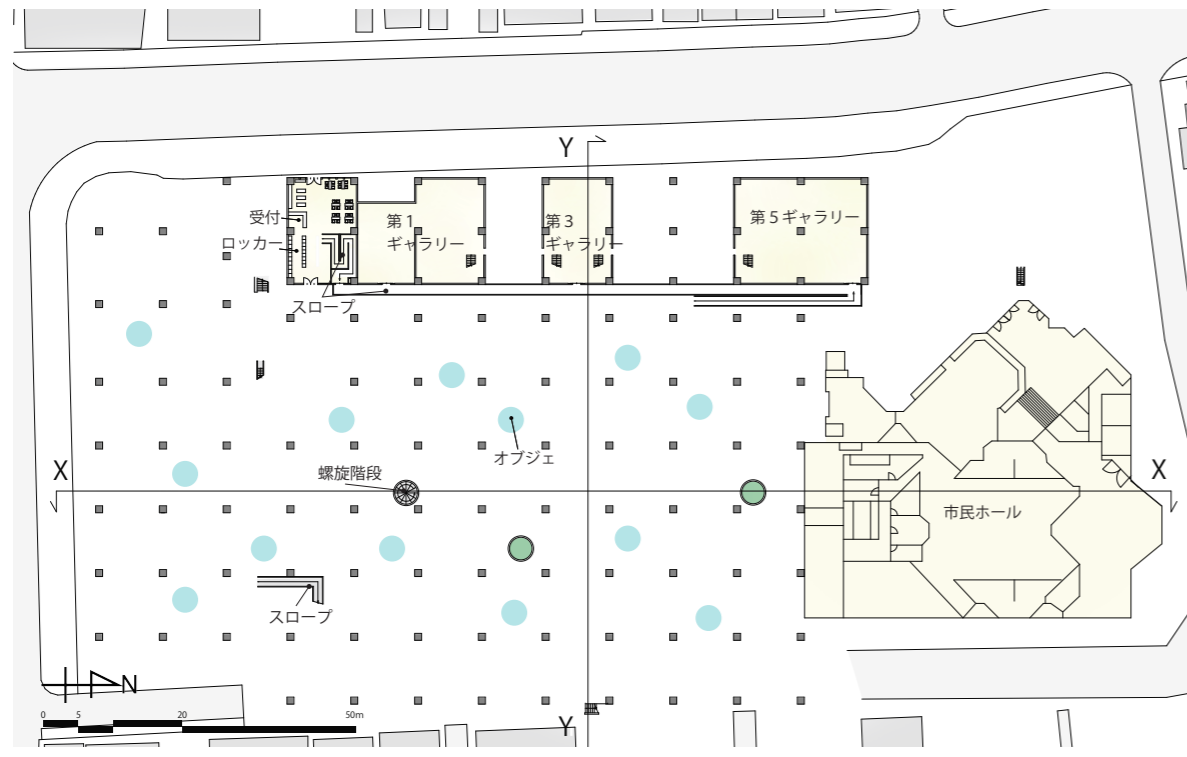




【図6】提案 3階平面図



【図7】提案 2階平面図



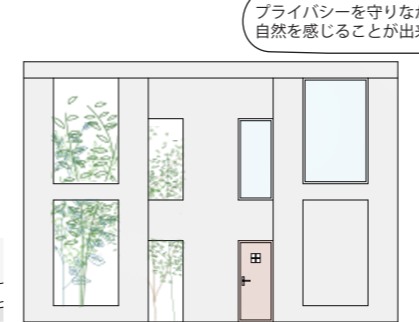
【図8】提案 1階平面図



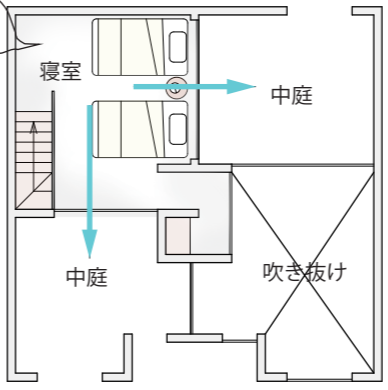
【パース3】Aタイプ 宿泊施設 内観



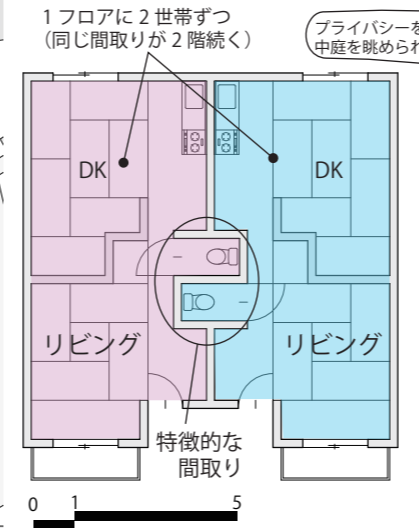
【パース4】繋がり遊歩道



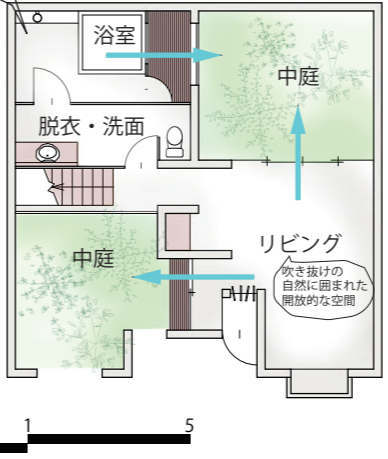
【図9】提案 Aタイプ宿泊施設 立面図



【図11】提案 Aタイプ宿泊施設 2階平面図



【図10】第1期・第2期 集合住宅 平面図



【図12】提案 Aタイプ宿泊施設 1階平面図

3-4 3階計画

3階は第2期、第4期の集合住宅をアートやアートな建築に興味を持つ観光客のために宿泊施設、第3期の集合住宅をアーティストのためのアトリエ、第1期の集合住宅の一部を「繋がり」を象徴とする遊歩道や会話を誘発する交流の場へと新陳代謝する。【表面：パース1】【図6】

建物の面影を残して新しく生まれ変わらせることで、坂出人工土地当初の情景を思い起こさせ、時代や建物の変化を感じることができると考える。

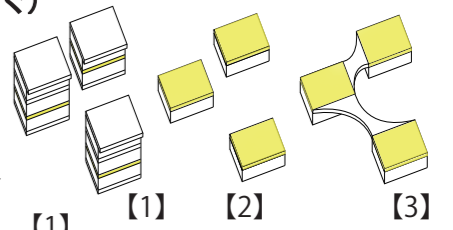
○宿泊施設

特徴的で面白い間取り【図10】を残しながら、2世帯を仕切る壁の一部を取り払い、1階2階を階段で繋げて広い空間をつくる。【図11・12】

非日常観や自然を感じることが出来るように、一般的な宿泊施設の定型的な間取りを避け、外部と内部を市松模様のように交互に仕切ることによりリビングと寝室は二方向から景色を楽しめるように設計する。【パース3】

○つながりの遊歩道 (地盤をつなぐ)

【集合住宅を遊歩道に新陳代謝】



- ① 3階の第2期、第4期地盤と同じレベルにある第1期集合住宅の2階基礎に印をつける。【1】
- ② 2階基礎とそれを支える1階の壁以外を取り払う。【2】
- ③ 基礎同士の端と端をつなぎ合わせ遊歩道をつくる。【3】

遊歩道を通して、離れている3階第2期と第4期の地盤を繋ぎ合わせる。坂出人工土地の象徴となるような遊歩道とし、「繋がり遊歩道」と名する。

○交流の場 (人をつなぐ)

第1期集合住宅の2階部分を利用して人と人を「繋ぐ」交流の場(カフェ・工房・ベンチなど)として新陳代謝させ、コミュニティや会話を誘発させる。【パース4】【図面6】

工房では、月に数回の工作イベントを行い、参加者とアーティストが触れ合える環境を作る。

4-まとめ

坂出人工土地のベースを受け継ぎながら今の時代の変化に必要なと考えるものへと新陳代謝させることで、坂出人工土地の魅力や面影を残していきながら、外国人や県外からの旅行者、アーティスト、一般の観光客など多種多様な人の交流が生まれ、人の集う場として蘇らせることが出来たと考える。

5-参考文献

- 書籍「現代日本建築家全集〈18〉大谷幸夫, 大高正人(1970年)」
- 書籍「建築家大高正人の仕事」
- 「基盤地図情報ダウンロードサービス」国土地理院 <https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php>
- 「坂出市における人工土地方式による再開発計画」 [www.kochi-a1110346.pdf](http://www.kochi-a1110346.pdf)
- 「坂出人工土地における開発手法に関する研究」 [www.arch.kansai-u.ac.jp/urban/Research-content/%E8%AB%96](http://www.arch.kansai-u.ac.jp/urban/Research-content/%E8%AB%96)